

むくのきだより 5月号



令和4年4月28日

港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

重点目標「やさしい子：人や自然を愛し、豊かな心をもつ子」
～人と関わる心地よい・楽しい経験から育つ子供たち～

園長 中村 美奈子

赤羽幼稚園を見守る「むくのき」も、美しい緑の葉を伸ばしています。5月を迎えるにあたり、子供たちの元気な成長を願って、かぶとを幼稚園玄関に、こいのぼりを園庭に、教職員で飾りました。



赤羽幼稚園の重点となる教育目標は、『やさしい子：人や自然を愛し、豊かな心をもつ子』です。幼児期、人や自然と関わるのが「心地よい」「楽しい」と感じる経験を味わうことが、その後の成長に大きく影響すると考えます。

基本的な生活習慣の一つ「あいさつ」は、人とのよい関わりを始める第一歩です。年少さくら組の子供たちも、年長ゆり組の子供たちや大人の挨拶をまねながら、「おはようございます」と声を出したり、お辞儀をしたりしています。時には、お父さん・お母さんと離れがたく声も出ないときもありますが、ぎゅっと体を抱きしめたり手でタッチしてもらったりして、幼稚園に入っていきます。家庭という安心できる場所から、幼稚園という「いろいろな人がいる」「初めてすること、わくわくすることに出会う」世界へ出発するので、「おはようございます」の挨拶を、「礼儀だからさせる」のではなく、「楽しいことが始まる合図」と子供がとらえ自分からしたくなるようにしていきたいと考えています。

また、「友達と思いや考えを共有する」「共通の目的に向けて活動する」「自分の（自分たちの）力でやり遂げる」体験につながる種を、幼稚園の生活時間や生活場所に散りばめ、子供たちに見付けさせたいと考えています。例えば、4月は教職員が飾ったこいのぼりを見た年長ゆり組の子供たちが、自分たちで作りたいという気持ちを持ち、グループ分かれて大きなこいのぼりを作りました。模様や色を相談したり、協力して描いたり、楽しそうでした。そして、何日かかけて世界に1匹だけのこいのぼりを全グループ完成させました。教職員が飾ったこいのぼりのそばに、子供たちが作ったこいのぼりが並びました。見上げる子供たちは、満足した誇らしげな表情をしていました。このような「友達と一緒にやって楽しかった」「ちょっと難しそうだったけど自分で（自分たちで）できた」という経験は、「またやってみたい」「挑戦してみたい」という気持ちにつながり、子供の世界を広げ、もっている力を更に伸ばします。大人である教職員は、子供の行動や言葉を受け止め、子供自身が考えて進む方向・方法を見付けるように支えるのが役目です。

季節や年間行事を考慮しながら、明日も「人と関わる心地よい・楽しい経験」ができるように、教職員一同で知恵を出し合っていきます。

